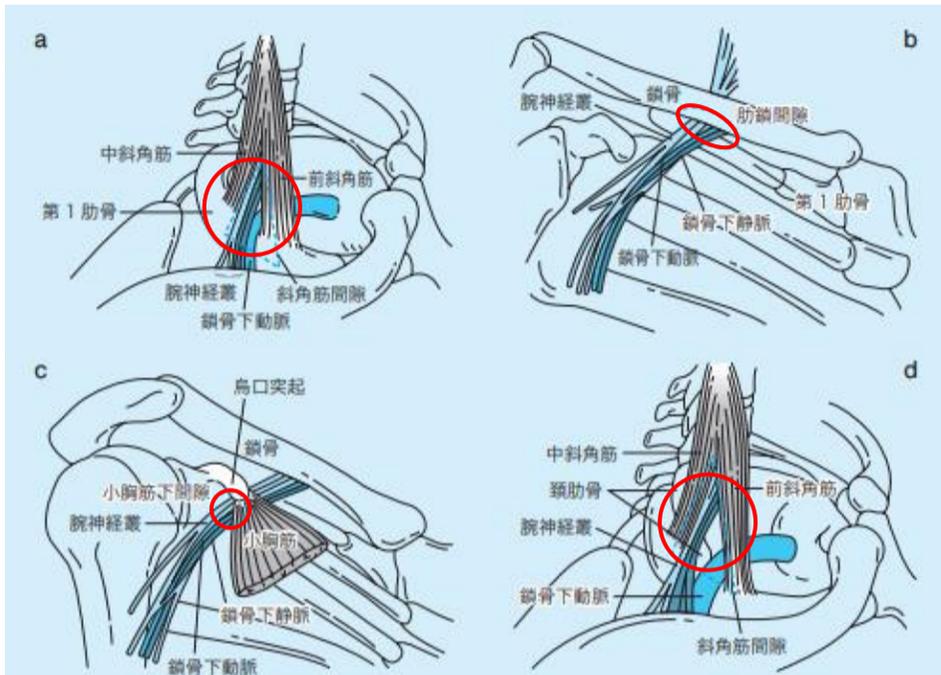


頸部シリーズ① 頸部の病態 (胸郭出口症候群と頸椎椎間板ヘルニア)

1:胸郭出口症候群

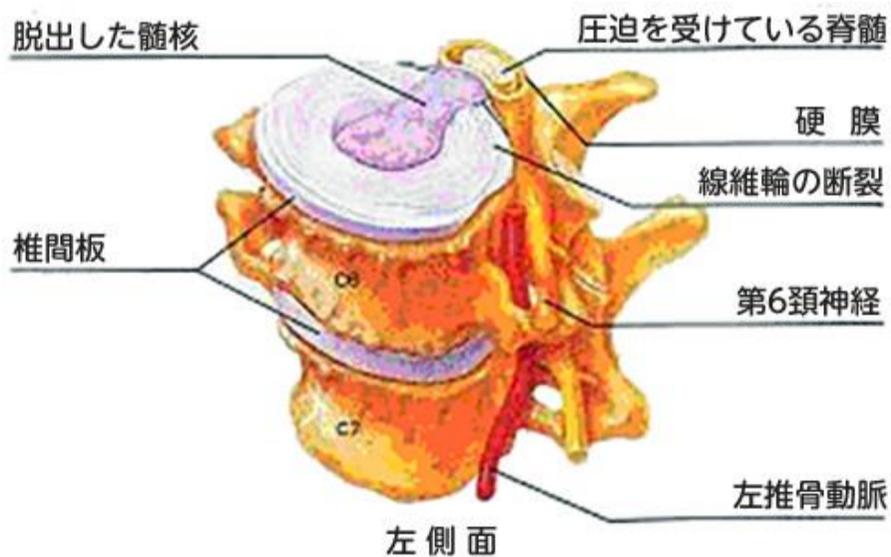


胸郭出口部分の構造 (地神裕史. 上肢の理学療法. 東京: 三輪書店; 2016. p. 181)

胸郭出口症候群は第1肋骨と鎖骨によって構成される胸郭出口部で腕神経叢や鎖骨下動脈、鎖骨下静脈が頸肋、鎖骨、第1肋骨などの骨や、前斜角筋、中斜角筋、小胸筋などの筋によって圧迫・牽引されることで生じる症候群の総称です。

神経症状（背部痛、上肢のしびれ、脱力）や静脈症状（上肢の浮腫やうっ血、感覚異常）を生じます。

2:頸椎椎間板ヘルニア



上下の頸椎を連結する組織である椎間板から、その中心組織である髄核が後方に脱出する場合があります。

この髄核によりその後方の脊髄や神経根が圧迫される疾患を頸椎椎間板ヘルニアといいます。

痺れ、上肢への放散痛、運動麻痺などの症状が生じます。